

瀬戸内海環境保全特別措置法に 基づく事前評価に関する書面

令和 7 年 4 月 1 日

申請者の住所及び氏名（法人にあっては所在地、名称、代表者名）

所 在 地： 大分県大分市大字丹生1093番地5
名 称： 株式会社 フロンティア
代表者名： 代表取締役 大賀 聖二郎

工場又は事業場の所在地及び名称

事業場所在地： 大分県大分市大字丹生1154番1他
事業場名 称： スプリングヒルズ



1 許可申請書の概要

(1) 特定施設設置(変更)の理由及び内容

事業場であるスプリングヒルズ（以下、「本事業場」という。）は、平成18年に協会社関連施設の名称にて他の棟とともに共同住宅及び寄宿舍を主要用途として使用が開始された。本事業場は水質汚濁防止法の規定による特定施設の設置届出を平成18年10月17日におこなっている。

今般、本事業場を旅館業法の規定によるビジネスホテルとするため消防法に基づく工事等の整備をおこなった。

よって今後は、客室内に設置されているちゅう房施設、入浴施設等が水質汚濁防止法に規定する特定施設（66の3 旅館業の用に供する施設）に該当し、かつ、従来より事業場の排出水量の最大値が107.6m³/日と50m³/日を越えており、瀬戸内海特別措置法の規制を受ける事業場となるため、申請及び本書面の提出に至った。

(2) 排水口における排出水の汚染状態及び量が減少（変わらず）の場合はその理由

本事業場は、平成18年より水質汚濁防止法に規定する指定地域特定施設（合併処理式浄化槽：475人槽及び40人槽）を設置し、共同住宅および寄宿舍を運営する特定事業場として届出を行っている。

今回、既設の共同住宅および寄宿舍をホテルの客室として用途変更するが、施設の規模や数に変更はなく、合併処理式浄化槽の使用方法にも変更はない。

ただし、40人槽の排水口が異なっていることから排水量を確認した結果、排水量の増加はなかったため、排出口における排出水の汚染状態及び量に変更はない。

2 工場又は事業場からの排水経路並びに工場又は事業場の排水口の位置及び数

(1) 別図1、2のとおり

(2) 排水系統及び排水経路の略図

3 工場・事業場の各排水口における排出水の汚染状態の通常値及び最大の値、当該排出水の1日当りの通常値及び最大の値並びに当該排出水の汚濁負荷量

排水口	区 分 項 目	現 状				設置後				負荷量・水量 の増減	
		水量・水質		負 荷 量		水量・水質		負 荷 量		の増減	
		通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
排水口	排水量 (m ³ /日)	61	108			61	108				
	pH	6.0~8.0	5.8~8.6			6.0~8.0	5.8~8.6				
	BOD (mg/l)	10	20	1.1	2.2	10	20	1.1	2.2	0	0
	COD (mg/l)	30	40	3.2	4.3	30	40	3.2	4.3	0	0
	SS (mg/l)	20	50	2.2	5.4	20	50	2.2	5.4	0	0
	T-N (mg/l)	25	30	2.7	3.2	25	30	2.7	3.2	0	0
	T-P (mg/l)	3	3	0.3	0.3	3	3	0.3	0.3	0	0
	大腸菌数 (CFU/mL)	<800	<800	-	-	<800	<800	-	-	-	-

※最大負荷量(kg/日)=最大排水量(m³/日)×最大水質(mg/l)×10⁻³

通常負荷量(kg/日)=最大排水量(m³/日)×通常水質 (mg/l)×10⁻³

4 工場又は事業場の排水口の周辺の公共用水域について定められている水質汚濁に係る環境基準その他水質汚濁に係る環境保全上の目標に関する事項

(1) 人の健康の保護に関する環境基準

項 目	基 準 値	項 目	基 準 値
カドミウム	0.003mg/l以下	1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/l以下
全シアン	検出されないこと	トリクロロエチレン	0.01mg/l以下
鉛	0.01mg/l以下	テトラクロロエチレン	0.01mg/l以下
六価クロム	0.05mg/l以下	1,3-ジクロロベンゼン	0.002mg/l以下
砒素	0.01mg/l以下	チウラム	0.006mg/l以下
総水銀	0.0005mg/l以下	シマジン	0.003mg/l以下
アルキル水銀	検出されないこと	チオベンカルブ	0.02mg/l以下
ポリ塩化ビフェニル (PCB)	検出されないこと	ベンゼン	0.01mg/l以下
ジクロロメタン	0.02mg/l以下	セレン	0.01mg/l以下
四塩化炭素	0.002mg/l以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/l以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/l以下	ふっ素	0.8mg/l以下
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/l以下	ほう素	1mg/l以下
トリス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/l以下	1,4-ジオキサン	0.05mg/l以下
1,1,1-トリクロロエタン	1mg/l以下		

備考：海域については、ふっ素及びほう素の基準値は適用しない。

(2) 生活環境の保全に関する環境基準

排出先の海域・河川名		江川	(参考) 住吉川
環境基準点			鳥越橋
環境基準類型			C
基準値	水素イオン濃度 PH	なし	7.8~8.9
	生物化学的酸素要求量 (mg/l) BOD		0.8~2.1
	化学的酸素要求量 (mg/l)		—
	浮遊物質 (mg/l) SS		<1~1
	溶解酸素量 (mg/l) DO		10~13
	大腸菌数 (CFU/mL)		—
	n-ヘキサン抽出物質 (油分等)		—
	全窒素 (mg/l)		2.8~4.2
	全リン (mg/l)		0.12~0.29

(3) その他の水質汚濁に係る環境保全上の目標

① ダイオキシン類対策特別措置法に基づく環境基準

ダイオキシン類	1 pg-TEQ/l
---------	------------

② その他
特になし

5 周辺公共用水域の水質の現況及び排出水の排出に伴い予測される
周辺公共用水域の水質の変化の程度

(1)－1 周辺公共用水域の水質の現況（河川域）

測定月日 平成 30年 6月 4日～平成 30年 6月 4日（3回/日）

測定分析機関名 （公社）大分県薬剤師会検査センター

河 川 名	江 川	測 定 点 名	内無川第2号橋下
-------	-----	---------	----------

水質の現状											
月	日	時刻	流 量 ($\text{m}^3/\text{日}$)	pH	BOD (mg/l)	COD (mg/l)	SS (mg/l)	大腸菌 群数 (MPN/ 100ml)	T-N (mg/l)	T-P (mg/l)	DO (mg/l)
6 月	4 日	7:00		8.0	0.6	2.1	4.4	3500	1.1	0.07	9.1
		11:00		8.3	0.9	2.8	7.4	5400	1.1	0.07	9.4
		15:00		8.4	0.8	2.9	6.0	1700	1.1	0.07	9.3
		平均				0.7	2.6	5.9	3533	1.1	0.07
月	日										
		平均									
月	日										
		平均									
総 平 均				8.2	0.7	2.6	5.9	3533	1.1	0.07	9.2
将 来 水 質			—	—	—	—	—	—	—	—	—

測定点毎に用紙をかえること。

(1)－2 その他当該水域に関する事項

特になし

(4) 予測の方法

- ① 汚濁負荷量の増加の有無（有・~~無~~）
（ただし、汚濁負荷量の増加がない場合は②③を省略する）

- ② 排出水の公共用水域での影響範囲
（河川域）

（海 域）

新田式($\log(r^2 \theta / 2) = 1.226 \log Q + 0.086$)から求めた周辺公共用水域の外縁までの
距離 (r) は m です。

$\theta = 180^\circ$ （拡散角度：ラジアン）

$Q = 99 \text{ m}^3/\text{日}$ （最大排水量）

③-1 予測の手法（河川域）

$$S' = \frac{S \cdot Q + (S_0 Q_0 - S_0' Q_0')}{Q + (Q_0 - Q_0')} \quad \text{から将来の水質を予測すると}$$

地点名（ ）

S' (BOD) = _____ =

S' (COD) = _____ =

S' (SS) = _____ =

S' (T-N) = _____ =

S' (T-P) = _____ =

地点名（ ）

S' (BOD) = _____ =

S' (COD) = _____ =

S' (SS) = _____ =

S' (T-N) = _____ =

S' (T-P) = _____ =

地点名（ ）

S' (BOD) = _____ =

S' (COD) = _____ =

S' (SS) = _____ =

S' (T-N) = _____ =

S' (T-P) = _____ =

地点名（ ）

S' (BOD) = _____ =

S' (COD) = _____ =

S' (SS) = _____ =

S' (T-N) = _____ =

S' (T-P) = _____ =

③-2 予測の手法（海域）

$$\text{ヨーゼフ・ゼンドナー式 } C = 1 - \exp \left\{ - \frac{Q}{\theta dp} \left(\frac{1}{X} - \frac{1}{l} \right) \right\} \quad \text{から求めた}$$

希釈率Cは次の通りです。

$$C \text{ (} r/3 \text{の地点)} =$$

$$C \text{ (} 2r/3 \text{の地点)} =$$

(注) $Q =$ $\text{m}^3 / \text{日}$ (最大排水量)
 $\theta =$ (拡散角度)
 $d = 2 \text{ m}$
 $p = 864 \text{ m/日}$
 $x =$ m $\text{m (} r/3, 2r/3 \text{の距離)}$
 $l =$ m

$S' = S_1 + (S_0 - S_1) \cdot C$ から将来水質を予測すると

$r/3$ の地点

$$S'(\text{COD}) = + (\quad - \quad) \cdot \quad =$$

$$S'(\text{SS}) = + (\quad - \quad) \cdot \quad =$$

$$S'(\text{T-N}) = + (\quad - \quad) \cdot \quad =$$

$$S'(\text{T-P}) = + (\quad - \quad) \cdot \quad =$$

$2r/3$ の地点

$$S'(\text{COD}) = + (\quad - \quad) \cdot \quad =$$

$$S'(\text{SS}) = + (\quad - \quad) \cdot \quad =$$

$$S'(\text{T-N}) = + (\quad - \quad) \cdot \quad =$$

$$S'(\text{T-P}) = + (\quad - \quad) \cdot \quad =$$

6 その他当該特定施設の設置等が環境に及ぼす影響についての 事前評価に関し参考となるべき事項

特になし